

オンリーワン道の

肥後産業

【鹿児島】肥後産業（肥後貴哉社長、鹿児島市）では、3温度帯物流センターと長距離及び近距離輸送モードを組み合わせ、鹿児島県の特産品である茶葉の一貫輸送を担い、地域の農業を支援している。また、大規模災害時の緊急物資支援輸送にも積極的に取り組み、社会貢献を果たす。（上田慎二）

長距離輸送が売上高の8割を占め、地理的ハンディに伴う長時間労働の抑制、ドライバードライバードライバー不足解消などの経営課題に直面しており、トラック輸送を取り巻く事業環境は厳しい。こうした中、二つ目となる事業の柱として育てた現在の長距離輸送を維持が無かった定温物流に着手。2008年から準備を進め、12年の新物流センター的な経営コストの負担には

3温度帯で茶葉輸送

新物流センターと茶葉専用の集配車



運のアドバースを受けている。両社に社員を派遣し、温度管理の力を握る物流センターオペレーションの手法を一から学んだと振り返る。

茶葉は、収穫直後から発酵が始まるため、荒茶加工までの間、低温保管が有効かつ差別化

力がある。社員全員の能力を最大限に発揮させ、両分野で活躍できる人材を育てる必要がある。肥後社長（41）は「冷蔵冷凍輸送部門の人材育成は、先駆者である南日本運輸倉庫（大園圭一郎社長、東京都中野区）と、園田陸

同社では、生葉の集荷・

冷凍保管から、荒茶加工場の出入荷作業、大手飲料メーカーの工場納入までの物流業務を一貫して請け負う。

茶葉は非常にデリケート。温・湿度、においの管理にも細心の注意を払う。高度な品質管理が好評を得て、取引先は宮崎、熊本、両県にも広がっている。

茶葉をはじめ、県産品の長距離輸送を積み合わせることで、地元の荷主企業の物流コストを削減。更に、関西圏からの下り便の受注増で実車率を高める。こうした取り組みにより、肥後グループの売上高は60億円（16年7月期）を見通す。

社会貢献活動は最重要テーマの一つ。東日本大震災での復旧支援活動では、現地で極端な支援物資の不足に直面した。その教訓を生かし、東日本大震災以降、美山倉庫（鹿児島県日置市）内に、水や紙オムツ、ティ

ツシユペーパーなど、大型車7台分の支援物資の備蓄を企業判断で続けている。熊本地震では、4月14日の前震発生直後、社員、建物ともに無事だった熊本支店（熊本市東区）のスタッフ

が、被災地の避難所が必要な支援物資を調べ、翌日早朝から、小型車、大型車で支援物資輸送に着手し、大型車5台分の水や紙オムツを、無償で益城町まで運び、寄付した。15年5月、鹿児島県口永良部島の新岳で爆発的噴火が発生した際には、トイレットペーパーなどを海上輸送で屋久島へ届け、島民の避難生活を支えた。

肥後氏は「災害発生時の混乱の中、迅速に支援物資を供給するには日頃の準備が欠かせない。可能な限り物資の備蓄を整えて、救援活動に協力したい」と話している。

同社では、生葉の集荷・

同社では、生葉の集荷・

同社では、生葉の集荷・

同社では、生葉の集荷・

同社では、生葉の集荷・

同社では、生葉の集荷・